

図画工作科学習指導案

実施期間 平成22年10月13日（水）
～10月14日（木）

指導者 早矢仕 智陽

I 題材名 「てざわりハンター」（鑑賞）

II 題材の考察

1 児童の実態

児童は、小学校に入学して、図画工作科のオリエンテーションとなる題材「みつけたよ」を学習した。教科書に載っている作品や活動の様子を鑑賞し、今後の学習を想像しながら、作品や素材のもつ形や色の楽しさを意欲的に発表していた。以降の学習においても、毎週の授業を楽しみにしており、教師の指示や注意を守って、活動に取り組むことができている。

鑑賞においては、児童同士の作品を対象として、互いの作品からよさを見つける活動を楽しんできた。できあがった作品を並べて、友達との共通点を見付けたり、工夫した点を認め合ったりしてきた。また、身近な素材を扱う題材では、持ち寄った素材を比べ合ったり、玩具のようにして友達と遊んだりしながら、楽しく造形的な活動に取り組む姿が見られた。

なかには、経験を基にして、形や色のもつ感じについて発表する児童が見られた。気に入った作品の、形や色から想像したことについても、発表することができる児童も見られるようになってきた。

2 題材の価値

本題材は、身近な素材（もの）の手ざわりに関心をもち、積極的に手で触れたりさわった感じの違いを見付けたりして、気に入った手ざわりを紙とパスでフロッタージュにして集め、それらをゲームで楽しみながら交流し、他の児童に紹介するものである。

児童は、独立した鑑賞題材を学習するのは、初めての経験となる。この時期の児童は、素材を体に付けてみたり、手に取って動かして遊んだりするなど、自分と一体化させて見たり感じたりする特徴がある。また、素材を何かに見立てて遊ぶ姿や、面白いと感じたものを大事そうに取っておく様子も見られる。素材を見たりさわったりしながら、感じ取った楽しさや面白さを自然に言葉に出したり、他の児童の説明を楽しんで聞いたりする様子も見られる。このため、体全体の感覚を十分に働かせて身近な素材とかかわる活動や、素材から受けた印象を言葉にして発表し合う活動など、楽しく見る鑑賞の基礎的な力や態度を育てることが大切である。

題材で扱う素材（もの）とは、児童の身の回りにあるものの手ざわりである。素材のもつ質感に着目し、手ざわりを対象にして鑑賞を行うことで、見慣れたものから受ける感じの違いに気付かせたい。そして、新たに扱う素材に対しても、自分の見方や感じ方で特徴に気付くことができる力を養いたい。

活動で行うフロッタージュとは、簡単な擦りだしの技法である。表面がでこぼこした物に紙を当て、鉛筆やパスなどでこすると、その表面のでこぼこが模様となって紙に写し取られる。低学年児童にとって簡単な作業であり、できあがった作品は絵画的で別のものをイメージさせる雰囲気がある。このため、児童は作業そのものを楽しむことができ、意欲的に手ざわりを集める活動に取り組むことが期待できる。

まず児童は、教師が提示したフロッタージュの参考作品を見て、どうやってつくられたものか想像する。そして、参考作品が教室のなかにある素材を転写したものだとなり、手ざわりを鑑賞する題材

への関心が高まる。教師がフロッタージュを実演することで、技法についての興味も高まるだろう。フロッタージュは、試行活動を行うことで、確実に習得できるようにする。

次に児童は、手ざわりをフロッタージュにして集める活動を行う。事前に、いろいろな手ざわりや感じ方があることを、鑑賞支援資料を使って確認する。そして、身近な素材のなかから気に入った手ざわりを探す活動を行うことで、手ざわりの違いや手ざわりから起こる感情について、気付くことができる。活動を楽しみながら、「もっとたくさん見付けたい」「あれにもさわってみたい」などの意欲が起こり、能動的な鑑賞を行うことができるだろう。

交流は、児童のフロッタージュを、カルタやコレクションにして伝え合う活動を行う。交流の過程で、自分と同じ感じ方をもつ友達に共感する、自分とは違った感じ方を発見して感心する、など、鑑賞の深まりが期待できる。作品は教室に掲示し、休み時間などを利用して友達の見付けた手ざわりを確かめたり、新たな手ざわりを見付けたりすることを奨励したい。

ここでの学習は、身の回りの素材を、見ることや飾ることを楽しむ鑑賞題材「お気に入りコレクション」へと発展していく。

3 題材の系統

実施時期	題材名	目標
1年1学期	みつけたよ	1年生で学習する図画工作科のめあてを知り、教科書を見て、したいことや、見付けたものについて話し合う。
1年2学期	てざわりハンター(本題材)	
2年2学期	お気に入りコレクション	自分が集めたものの、思いに合った見せ方や飾り方を考えて、できた作品を互いに紹介しながら楽しく見る。

4 指導上の留意点

- 導入の場面では、手ざわりの鑑賞への関心が高まるように、児童の身近な学習用具をフロッタージュにしたものを、資料として提示する。
- 児童が確実にフロッタージュのやり方を身に付けられるように、試行活動の場面を設ける。
- 観察的な見方で鑑賞する場面では、進んで素材かかわれるよう、鑑賞支援資料を取り入れているいろいろな手ざわりや感じ方があることに気付けるようにする。
- 個々の児童の見取りができるよう、活動場面に応じたワークシートを用意する。
- フロッタージュを使ったクイズやゲームの活動で活発に交流が行えるように、鑑賞支援資料を取り入れて、やり方を伝えるようにする。

Ⅲ 目標及び評価規準

1 目標

身近な素材(もの)のもっている手ざわりに関心をもち、積極的に触れたり、さわった感じの違いを見付けたりし、気に入った手ざわりをフロッタージュや簡単な文にして紹介ができる。

2 評価規準

関心・意欲・態度	身近な素材(もの)に関心をもちさわり、その手ざわりを楽しんでいる。
鑑賞の能力	いろいろな素材(もの)の手ざわりの違いを感じ取り、好きな手ざわりを見付けて、他の児童に簡単な紹介ができる。

IV 指導計画（全2時間）

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点	具体的評価規準 〈観点〉（評価方法）
1	<p>○身近な素材（もの）の手ざわりに関心をもち、手ざわりをフロッタージュで集めるやり方を知る。</p> <p>○身近な素材（もの）から、いろいろな手ざわりを探して、気に入ったものをフロッタージュにして表す。</p>	<p>○題材への関心を高めるため、教科書や資料を使って、手ざわりをフロッタージュにして集める方法を紹介する。</p> <p>○児童が確実にフロッタージュができるように、試行活動の場面を設ける。</p> <p>○児童が進んで様々な手ざわりを見付けられるように、手ざわりのサンプルと探すポイントを載せた鑑賞支援資料を取り入れる。</p>	<p>○題材に関心をもち進んで話し合いに参加している。 〈関心・意欲・態度〉（活動観察）</p> <p>○身近な素材（もの）の手ざわりに関心をもち、さわった感じをメモにして発表したり、手順を守って活動したりできている。 〈鑑賞〉（作品）</p>
2	<p>○フロッタージュを、カルタやコレクションにして、感じ方を交流する。</p>	<p>○互いの作品が、何をフロッタージュしたものか想像して遊んだり、紹介したりできるように、交流の仕方を載せた鑑賞支援資料を取り入れる。</p>	<p>○カルタやコレクションで交流を楽しみながら、他の児童の感じ方に共感をしたり、感じ方の違いに気付いたりしている。 〈鑑賞〉（ワークシート）</p>

V 本時の学習（第1／2時の学習）

※ 屋内で実施の場合

1 ねらい

身の回りには、いろいろな手ざわりがあることに気づき、気に入った手ざわりをフロッタージュにして表す。

2 準備

（教師） 掲示資料、鑑賞支援資料「みるナビ」みる①（班の数分×2）、ワークシート（フロッタージュカードとてざわりカードが1枚になったもの）、フロッタージュ用素材（CD、バトミントンラケット、蚊取り線香、テープ、板、マットなど）、振り返りシート

（児童） パステル、はさみ

3 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
	一線は〔共通事項〕ア、～線は〔共通事項〕イが働く姿	□内は研究上の手だて 一線は〔共通事項〕ア、～線は〔共通事項〕イにかかわる内容
15分 ふれる過程	<p>1 身近な素材の手ざわりに関心をもち、手ざわりをフロッタージュで集めるやり方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロッタージュで作品をつくる手順を知る。 ・フロッタージュの試しの活 	<p>○題材への関心が高まるよう、教科書の写真や教師の用意した資料を使って、手でものをさわ様子やフロッタージュで表すやり方を紹介する。</p> <p>○フロッタージュの手順が理解できるよう、教師が実演しながら身近な学習用具（はさみ）にさわ、転写する。</p> <p>○確実にフロッタージュができるようワークシートを使って、手順や記入する内容、用具の確認する。</p>

	<p>動を行う。</p> <p>2 学習課題を知る。</p>	<p>○うまく転写ができない児童には、ワークシートの項目（おさえる場所・こする方向）に注意して行うよう伝える。</p> <p>○課題への意欲が高まるよう、生活で使ういろいろな素材の手ざわりを、フロッターージュで表すことを伝える。</p>
	<p>学習課題 おきにいりのてざわりをみつけて、フロッターージュであつめよう</p>	
25分	<p>3 身近な素材から、いろいろな手ざわりを探して、気に入ったものをフロッターージュにして表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が用意した素材（CD、バトミントラケット、蚊取り線香、テープ、板など）の手ざわりを確かめ、気に入った手ざわりをフロッターージュで表す。 ・<u>作品を2枚つくる。</u> 	<p>児童が進んで様々な手ざわりを見付けられるように、素材のサンプル（①～⑤）を載せた鑑賞支援資料「みるナビ」を取り入れる。</p> <p>○全ての児童が手ざわりを確かめることができるよう、班ごとにフロッターージュ用素材を配布する。</p> <p>○気に入った手ざわりが見付けられるように、幾つかの素材の手ざわりを確かめてから、フロッターージュに表すものを決めるように伝える。</p> <p>○違いが表せるように、手ざわりの違うものを2枚のフロッターージュにすることを伝える。</p> <p>○決まりや安全を守って活動できるように、手順（さわった感じを記入する・見つけた場所を記入する・フロッターージュで表す）や行動の注意を確認する。</p> <p>○うまく転写ができない児童には、フロッターージュの手順を確認し、試行活動との違いに気付けるようにする。</p>
5分	<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想を振り返りシートにまとめて、発表する。 	<p>○次時へ期待が高まるよう、活動の様子を賞賛する。</p> <p>○学習のまとめを行えるよう、振り返りシートを配布する。</p>

V 本時の学習（第1／2時の学習）

※ 屋外で実施の場合

1 ねらい

身の回りには、いろいろな手ざわりがあることに気づき、気に入った手ざわりをフロッターージュにして集める。

2 準備

（教師） 掲示資料、鑑賞支援資料「みるナビ」みる①（班の数分×2）、ワークシート（フロッターージュカードとてざわりカードが1枚になったもの）、振り返りシート

（児童） パステル、はさみ、生活科バッグ

3 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
	<p>ー線は〔共通事項〕ア、～線は〔共通事項〕イが働く姿</p>	<p>□内は研究上の手だて</p> <p>ー線は〔共通事項〕ア、～線は〔共通事項〕イにかかわる内容</p>
15分	<p>1 身近な素材の手ざわりに関心を持ち、手ざわりをフロッターージュで集めるやり方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロッターージュで作品をつ 	<p>○題材への関心が高まるよう、教科書の写真や教師の用意した資料を使って、手でものをさわる様子やフロッターージュで表すやり方を紹介する。</p> <p>○フロッターージュの手順が理解できるよう、教師が実演しながら身近な学習用具（はさみ）にさわって、転写する。</p>

ふれる過程	くる手順を知る。 ・フロッタージュの試しの活動を行う。	○確実にフロッタージュができるようワークシートを使って、手順や記入する内容、用具の確認する。 ○うまく転写ができない児童には、ワークシートの項目（おさえる場所・こする方向）に注意して行うよう伝える。 ○課題への意欲が高まるよう、生活で使ういろいろな素材の手ざわりを、フロッタージュで表すことを伝える。
	2 学習課題を知る。	学習課題 おきにいりのてざわりをみつけて、フロッタージュであつめよう
25分 たしかめる過程	3 校庭にある、いろいろな手ざわりを探して、気に入ったものをフロッタージュで表す。 ・活動の範囲（玄関、築山の周囲）と活動の約束を知る。 ・ <u>作品を2枚つくる。</u>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 児童が進んで様々な手ざわりを見付けられるように、手ざわりのサンプル（①～⑤）と探すポイント（①～④）を載せた鑑賞支援資料「みるナビ」を取り入れる。 </div> ○児童の活動状況が把握できるよう、活動場所を2箇所に指定し、順に移動することを伝える。 ○気に入った手ざわりが見付けられるように、幾つかの素材の手ざわりを確かめてから、フロッタージュに表すものを決めるように伝える。 ○違いが表せるように、手ざわりの違うものを2枚のフロッタージュにすることを伝える。 ○決まりや安全を守って活動できるように、手順（さわった感じを記入する・見つけた場所を記入する・フロッタージュで表す）や行動の注意を確認する。 ○うまく転写ができない児童には、フロッタージュの手順を確認し、試行活動との違いに気付けるようにする。
5分	4 本時のまとめをする。 ・授業の感想を振り返りシートにまとめて、発表する。	○次時へ期待が高まるよう、活動の様子を賞賛する。 ○学習のまとめを行えるよう、振り返りシートを配布する。

V 本時の学習（第2 / 2時の学習）

※ 屋内、屋外共通

1 ねらい

フロッタージュでつくった作品を、カルタ遊びやコレクションにまとめる活動を通して、感じ方を交流し、いろいろな手ざわりや感じ方があることが分かる。

2 準備

（教師） 鑑賞支援資料「みるナビ」みる②（班の数分）、ワークシート（フロッタージュカードとてざわりカードが1枚になったもの）、コレクション台紙

（児童） はさみ、のり

3 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
	ー線は〔共通事項〕ア、～線は〔共通事項〕イが働く姿	□内は研究上の手だて ー線は〔共通事項〕ア、～線は〔共通事項〕イにかかわる内容
5分	1 前時の活動を思い出す。	○前時の学習を思い出すよう、児童の作品を数点紹介し、活動を賞賛する。
	2 学習課題を知る。	○課題への意欲が高まるよう、児童がクイズやゲームで交流

		することを伝える。
	学習課題	おきにいりのてざわりを ともだちにしようかいしよう
35分	3	<p>フロッタージュをカルタやコレクションにして、感じ方を交流することを伝える。</p> <p>○交流のめあてがもてるよう、作品で遊んだり、コレクションにまとめたりして、紹介し合うことを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>互いの作品は何をフロッタージュしたものか想像して遊んだり、紹介したりできるよう、交流の仕方を載せた鑑賞支援資料「みるナビ」を取り入れる。</p> </div> <p>○フロッタージュカルタの進め方が理解できるよう、教師が黒板を使って実演し、児童全員で解答する。</p>
		<p>・フロッタージュカルタの進め方を知る。</p> <p>○フロッタージュカルタであそぼう</p> <p>① 2まいのフロッタージュカードの どちらを カルタにするか きめます。</p> <p>② つくえのうえに てざわりカードを よみながら ならべます。</p> <p>③ フロッタージュカードを みんなにみせて、「わたしのーばんの おきにいりの てざわりは どっちでしょう？」と ききます。</p> <p>ほかのこは「せーの！」で、こたえとおもった てざわりカードをゆびさします。</p> <p>④ こたえをはっぴょうします。ーばんおきにいりの わけも いえるかな？</p> <p>「なぜ、おきにいりかというと ○○だからです。」</p> <p>ほかのこは、はくしゅします。</p> <p>⑤ つぎのこと、こうたいします。</p> <p>・ワークシートのフロッタージュカードと、てざわりカードを切り離す。</p> <p>・<u>フロッタージュカルタをすす</u></p> <p>・フロッタージュを画用紙に貼り、フロッタージュコレクションをつくる。</p> <p>・自分の班、他の班の児童のコレクションを見合う。</p> <p>○ていねいな作業ができるよう、点線に沿って切ることを伝える。</p> <p>○順序よく交流ができるよう、教師が進行をする。</p> <p>○紹介がうまくできない児童には、一緒に声を出したり励ましたりする。</p> <p>○児童が楽しみながら他の児童の作品を見ることができるよう、手ざわりの様子を記入する欄をめくると作品が現れる仕組みの台紙を用意する。</p> <p>○いろいろな感じ方に気付くことができるよう、座席を離れて全体で交流する。</p>
5分	4	<p>学習のまとめをする。</p> <p>・授業の感想を振り返りシートにまとめて、発表する。</p> <p>○学習のまとめを行えるよう、振り返りシートを配布する。</p> <p>○休み時間などを使って、友だちの見付けた手ざわりを確かめたり、新たな手ざわりを見付けたりする気持ちももてるよう、活動の様子を称賛する。</p>

ひろげる過程

図画工作科学習指導案

実施期間 平成22年10月15日（金）

指導者 早矢仕 智陽

I 題材名 「アート・レポーターになろう」（鑑賞）

II 題材の考察

1 児童の実態

児童は、これまでに「自信をもって」（5年1学期）の学習で、日本美術を主題にした鑑賞を通して、伝統的な美術のもつ発想のよさや面白さについて理解をしてきた。この学習の中で児童は、風神雷神を表した幾つかの作品を比較して、気付いたことや好きな作品を発表したりしながら、日本の美術に興味をもち、その表現のよさや美しさを味わっていた。

児童からは、風神雷神の表情やポーズを真似て気持ちを想像したり、手に持つ道具の役割を考えて伝えあったりしながら、互いの考えのよさを認め合う姿が見られた。また、作品の細かな部分に気を付けて鑑賞し、自分なりの見方で意見を言うことができる児童も見られるようになってきた。見方や感じ方を伝え合う場面でも、どんな見方をしたのか、どんな部分を見て想像したことなのか発表し、交流を広げようとする児童も見られるようになってきた。

2 題材の価値

本題材は、日本や諸外国の美術作品を鑑賞する活動を通して、美術作品のもつ多様な表現への関心を高めるようにする。さらに、アート・レポーターの役割になって対象を見ることで、美術作品の固有のよさや美しさに気づき、それを他の児童へと伝え合うことで互いの見方や感じ方についてを交流し、作品への新たな意味や価値をつくりだしていくようにする。

児童は、美術作品を鑑賞の主題材とする学習を、第5学年で初めて経験する。この時期の児童は、個々の見方や感じ方が育ち始め、物事を社会的な視点からとらえることができるようになる。鑑賞の対象を観察的な見方で見たり、感情や意図などを読み取ったりする深いとらえ方もできるようになる。また、他の児童と見方や感じ方を共有したり、参考にしたりするなど、交流を行うことで互いの学習を深め合うこともできるようになる。このため、鑑賞の学習の基本となる、作品の見方や感じ方、感じ取ったことを相手に伝える力を身に付けさせるとともに、鑑賞を楽しむ態度を育てることが極めて大切である。

題材で扱う美術作品は、児童が親しみやすいものを中心とする。見たことがある作品、身近にある作品などを扱うことで、児童の興味がより高まるようにしたい。鑑賞の学習をきっかけにして、実物の美術作品を地域の美術館に見に行くことも大いに期待したい。

アート・レポーターは、児童が初めて耳にする役割であろう。この題材でのアート・レポーターとは、美術作品を鑑賞して、見たこと、感じたことなどを、他の児童に紹介する役割を指す。鑑賞は、個々の児童が感覚や経験などを基にして、自分なりの意味や価値をつくりだす能動的な活動である。アート・レポーターになることで、美術作品から感じ取ったよさや美しさを紹介しながら、「どこを見て、そう思ったのか」「画面のなかで何が起きているのか」という、問いの根拠となるものを示さなければならない。本題材では、この役割を即興的に行う場面を交流に設けることで、ゲーム的な面白さや若干の困難さが加わり、高学年の児童にとって魅力ある活動となることが期待できる。ハウゼン（Housen, 1992, 2002）の美的感受性に関する発達の規準によれば、ほとんどの児童や鑑賞の初心

者は、鑑賞において自分の感覚を使った物語の創作を行うとしている。アート・レポーターとして、物語のように美術作品を紹介する活動を通して、美術作品の見方や感じ方を深めることができるとともに、鑑賞の楽しさや面白さが実感できると考える。

まず、児童は、学芸員が美術作品を解説している写真を見ながら、教師の説明によりアート・レポーターの大体の役割を理解する。そして、美術作品のアートクイズを行うことで、楽しみながら題材への関心を高めていく。アートクイズは、レベルを変えた二つの内容を用意する。レベル1は、美術作品を鑑賞しながら、登場する人物やもの、描かれた場所、制作された国などを、三択問題から選ぶ内容である。画面に表されたものを手がかりに、直感的に解答する。レベル2は、想像して解答する問題である。正解は用意せず、「どこを見て、そう思ったのか」と、話し合うことで、児童は根拠をもって作品を見る面白さに気付くことができる。

次に、児童は、アート・レポーターになる準備を行う。まず、全員で1枚の絵を鑑賞する試行活動を行う。鑑賞支援資料を使って、紹介しなければならない内容（作品名、作者名、描かれた時代や国、描かれた物語など）を理解する。さらに、担当する美術作品（県、地域の美術館のアートカードから8枚）をくじで決めて鑑賞し、アート・レポーターの役割として紹介する準備をする。どの美術作品の担当になるのか事前には分からなかったため、児童は自然に緊張して、観察的に鑑賞を行うことになる。気付いたことを書き留めるレポートメモを用意し、試行活動の内容を生かして鑑賞に臨めるようにしたい。

アート・レポーターとなる過程では、どの作品を紹介しているのか、聴く側の児童には秘密にする。聴く側の児童は、紹介されている作品を探しながら鑑賞することで、紹介されている内容と自分の見方や感じ方を比較できる。また、アート・レポーター役の児童は、聴く側の児童から質問を受けることで、もう一度美術作品を鑑賞し、即興的に回答をしていく。互いの役割を経験することで、児童は、多様な見方や考え方があることに気付くことができる。他の児童の見方でもう一度美術作品を鑑賞することで、新たな驚きや発見をもつことができる。児童は、自分が美術作品にもった意味や価値を、この交流を通して再構築することで、見方や感じ方を深めることができると考える。

ここでの学習は、「作者が作品にこめた思いを想像したり、調べたりする」学習、「生活の中で楽しまれたり使われたりしてきた日本美術のよさを味わう」学習へと発展して行く。

3 題材の系統

実施時期	題材名	目標
5年1学期	自信をもって	雷神風神の主題に興味をもち、日本の伝統的な美術の発想のよさや面白さを知る。
5年2学期	アート・レポーターになろう（本題材）	
6年2学期	作者からのメッセージ	作品の形や色をよく見て、作者が作品にこめた思いを想像したり、調べたりして鑑賞する。
6年3学期	日本の美術を味わおう	どのように使われていたのかを想像しながら見て、生活の中で楽しまれたり使われたりしてきた日本美術を知り、よさを味わう。

4 指導上の留意点

- 導入の場面では、美術作品の鑑賞への関心が高まるよう、主に既習の学習で扱った作品や地域の美術館の作品など、身近な作品を扱うようにする。
- 観察的な見方で鑑賞する場面では、観点に沿って美術作品を見ることができるよう、鑑賞支援資料を取り入れて特徴に気付けるようにする。
- 交流の場面では、互いの見方や感じ方に気付けるよう、鑑賞支援資料を取り入れてアート・レポーター役と観客役の思考の働きをつかめるようにする。
- 個々の児童の、見方や感じ方を確実に見取ることができるよう、活動の場面に応じたワークシートを用意する。

Ⅲ 目標及び評価規準

1 目標

日本や諸外国の美術作品に関心をもち、表現されているものから想像したことなどを、アート・レポーターの役割になって紹介したり話し合ったりしながら、作品から伝わるよさや美しさを感じ取ることができる。

2 評価規準

関心・意欲・態度	日本や諸外国の美術作品に関心をもって、見ることを楽しんでいる。
鑑賞の能力	日本や諸外国の美術作品の、形や色から感じ取ったことを、簡単な文章に表して紹介し合いながら、表現のよさや特徴に気付くことができる。

Ⅳ 指導計画（全2時間）

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点	具体的評価規準 (観点) (評価方法)
1	○日本や諸外国の美術作品の表現に関心をもつ。 ○即席アート・レポーターになって、美術作品を紹介する準備をする。	○美術作品の鑑賞への関心を高めるため、アートカードを使ったゲームやクイズで、鑑賞する。 ○どんな見方をしたらよいのか、観点を示した鑑賞支援資料を取り入れることで、児童が自分なりの見方で考えたり、想像を働かせたりしながら鑑賞できるようにする。	○進んで話し合いや活動に参加している。 (関心・意欲・態度) (活動観察) ○表現から想像したことを、簡単な文章に表している。 (鑑賞) (ワークシート)
2	○アート・レポーターになって、美術作品を紹介し合う。	○交流の進め方をガイドした鑑賞支援資料を取り入れることで、自分と他の児童の見方や感じ方を比べながら鑑賞できるようにする。	○形や色について質問したり答えたりする交流を楽しみながら、自分とは違う見方や考え方に気付いている。 (鑑賞) (ワークシート)

V 本時の学習（第1／2時の学習）

1 ねらい

アート・レポーターの役割を知り、紹介する美術作品から表現のよさや美しさを感じ取る。

2 準備

- （教師） プロジェクター、掲示用図版（神奈川県浪裏）、ワークシート、○×美術館長の辞令鑑賞支援資料「みるナビ」みる①(班の数分×2)、レポートメモ、8枚の作品を1枚にまとめたポスター（8枚の作品：群馬県立近代美術館アートカード）
- ・No.040《陽が沈む》岡本彌壽子
 - ・No.091《女と衣装》中村節也
 - ・No.105《ある知らせ》森芳雄
 - ・No.109《ノートルダム》山口薫
 - ・No.121《ポール・ヴィヤール博士の家族》ラウル・デュフィ
 - ・No.137《読書するふたり》ピエール＝オーギュスト・ルノワール
 - ・No.143《奉献（三人の女性と子供）》ヘンリー・ムーア
 - ・No.172《夢見る少年たち》オスカー・ココシュカ

3 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
	一線は〔共通事項〕ア、～線は〔共通事項〕イが働く姿	□内は研究上の手だて 一線は〔共通事項〕ア、～線は〔共通事項〕イにかかわる内容
10分 ふれる過程	1 アート・レポーターの役割を知る。 2 日本や諸外国の美術作品の表現に関心をもつ。 ・「アート・レポータークイズ」レベル1（解答を選択する問題）、レベル2（解答を想像する問題）をする。 3 学習課題を知る。 ・「○×美術館長の辞令」を聞き、アート・レポーターになって美術作品を紹介する活動であることを知る。	○アート・レポーターの役割に関心をもてるように、教科書の図版や資料を使って紹介する。 ○美術作品の鑑賞への関心が高まるよう、作品をクイズ形式（登場人物、もの・場所・物語など）で紹介する。 ○作品の全体や細かな部分の印象をもつことができるように、プロジェクターで大きく図版を映す。 ○児童の関心を高めるよう、既習の作品、地域の美術館の作品など、親しみやすいものを中心に扱う。 ○学習課題を伝えるため、場の設定として教師が自作した「○×美術館長の辞令」を読む。 ○○小学校○組のみなさん あなたたちは、○×美術館アート・レポーターとして採用されました。おめでとうございます。つきましては、当館美術作品の紹介をしていただきます。 ○×美術館長より ところで…
	学習課題 即席アート・レポーターになって、日本や外国の美術作品を紹介しよう	
30分 たしかめる過程	4 即席アート・レポーターになって、美術作品を紹介する準備をする。 ・「○×美術館長の辞令」を聞き、活動内容を知る。	○「○×美術館長の辞令」の続きを読み、アート・レポーターの役割になって美術作品を紹介する活動であることを知らせる。 ところで、今日から始まる展覧会で手ちがいがおきてしまった。予定にない8枚の作品が飾られてしまったのだ。作者も内容もまったく分からない。そこで、アート・レポーターのあなたに、お客の相手をしてもらいたい。知らない作品と気付かれないように、紹介をしなさい。8枚の作品はまとめて飾られている。指さしたり、場所を教えたりせず、プロらしく言葉だけで、どの絵のことかお客に分かるようにすること。 以上

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8枚の作品のなかから、1枚担当することを知る。 ・ 紹介する美術作品を決める。 ・ 全体で美術作品を鑑賞し、紹介のための観点を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ①表されているものを見つける。 ②画面のなかの出来事を想像する。 ③表情などから登場人物の気持ちを想像する。 ④一番気になる部分を見つける。 ⑤制作年代、題名などを考える。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術作品を鑑賞し、<u>自分の考えや想像したことをレポートメモに記入する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童全員が対象となる美術作品を鑑賞できるよう、8枚(A～H)の作品を一つにまとめたポスターを児童に配付する。 ○活動に期待感をもてるよう、どの図版の担当になるか分からないように、封筒に図版のアルファベットを入れて選ぶ。 ○美術作品を紹介するための観点に気付けるよう、全体で掲示図版(神奈川沖浪裏)を鑑賞する試行活動を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><u>児童が自分なりの見方で考えたり想像を働かせたりしながら鑑賞できるように、どんな部分を見たらよいかポイントを示した鑑賞支援資料「みるナビ」を取り入れる。</u></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○どの作品の紹介なのか推理する楽しみをもたせるため、画面に表された人やものの数を書くことは制限する。 ○児童が考えたことや想像したことをまとめやすいように、鑑賞支援資料「みるナビ」のポイントに沿ったレポートメモを用意する。 ○全体が内容を深められるように、適切な記述ができていない児童のメモを全体の前で取り上げて賞賛する。 ○作業が進まない児童には、「みるナビ」を使って、紹介できる内容から考えるよう話す。 ○次時への期待が高まるよう、活動の様子を賞賛する。
5分	<ul style="list-style-type: none"> 5 本時のまとめをする。 ・ 振り返りシートに感想をまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の感想をまとめられるよう、振り返りシートを用意する。

V 本時の学習(第2/2時の学習)

1 ねらい

アート・レポーターの役割になって美術作品を紹介し、交流を通して気付いた見方や感じ方で鑑賞する。

2 準備

(教師) プロジェクター、8枚の作品を1枚にまとめたポスター(児童数)、掲示用図版、鑑賞支援資料「みるナビ」みる②(班の数分×2)、レポートメモ、振り返りシート

3 展開

時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
	一線は〔共通事項〕ア、～線は〔共通事項〕イが働く姿	□内は研究上の手だて 一線は〔共通事項〕ア、～線は〔共通事項〕イにかかわる内容
5分	1 前時の活動を振り返り、アート・レポーターを行う準備をする。 2 学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○アート・レポーターの準備や教具を確認するため、前時の活動内容を振り返る。 ○課題へ取り組む意欲を高めるため、前時の活動内容を賞賛し、学習課題を伝える。
	学習課題 即席アート・レポーターになって、見方や考え方を交流しよう	
30分	3 アート・レポーターになって、美術作品を紹介する。 ・ 交流の進め方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○全員の発表ができるように、班ごとに分かれて(六つの班)活動を進める。 ○順序よく活動が行えるよう、交流の進め方を確認する。

ひろげる過程	<p>「アート・レポーターになろう」交流の進め方</p> <p>①いつ頃の時代の作品か。 ②作者の出身地（国）はどこか。 ③使われている色。 ④作品の紹介。 ⑤作品の題名。</p>	<p>⑥どの作品の紹介だと思うか、どこの紹介でそう思ったのか、観客一人一人に理由を聞く。 ⑦紹介した作品のアルファベットを発表し、観客からの質問に答える。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のレポート・メモを見て、紹介の順序をチェックする。 ・交流の働きを知る。 ・<u>順番に、役割を変え、交流する</u> ・観客役は、どの作品の紹介なのか考えたり、質問やアドバイスを考えたりする。 ・アート・レポーター役は、質問に答えるため、もう一度美術作品を鑑賞する。 	<p>○どの作品の紹介なのか、観客役が迷いを楽しめるよう、紹介する順序に工夫するよう伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><u>自分と他の児童の考えや想像を比べながら鑑賞できるように、交流の進め方をガイドした鑑賞支援資料「みるナビ」を取り入れる。</u></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○お客役の児童が、作品を見ながら考えたり想像したりできるよう、8枚の作品を一つにまとめたポスターを見ながら聞くように伝える。 ○全体が内容を深められるように、きちんと自分の見方や考え方が交流できている班の活動を全体の前で取り上げ、やりとりを再現させる。 ○声が大きく出せない児童には、教師と一緒に声を出したり、班全体で協力して聞いたりするように伝える。
10分	<p>4 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに感想をまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞活動への満足感をもたせるため、活動の様子を賞賛する。 ○アート・レポーターや交流の感想をまとめられるよう、振り返りシートを用意する。